

水 土 里 レ ポ ー ト

投稿月日	令和4年12月15日(木)
タイトル	田んぼの学校～狩込みどじょっこ会による脱穀～
水土里レポーター名	水土里ネット那須野ヶ原 星野 恵美子

令和4年10月22日(土)、栃木県那須塩原市四区町において、狩込みどじょっこ会による「田んぼの学校」が開催されました。

曇り空ではありましたが、保全隊の会員、地元の親子、西小の校長先生はじめ教師の方など総勢70名が参加して脱穀作業が行われました。



みんなで稲を運びましょう！



よ～く聞いてね！

始めに、コロナの感染対策として、周りとは十分距離を取って作業することなどの注意事項の説明を聞いた後、10月2日に稲刈り後はぜ掛けした稲を皆で作業場所まで運びました。

作業前に、保全隊の方より作業の手順や「足踏脱穀機」や「唐箕」などの使い方の説明を受け、いよいよ作業開始です。

まずは「足踏脱穀機」での作業です。ペダルを踏む作業が重労働なのですが、今回は西小の先生が代わる代わる頑張ってくれました。子供たちは稲を抱えて順番が来るのを心待ちにしている様子ですが、親は不安な様子でした。なれないながらも子供たちは脱穀作業を頑張ってくれました。ブルーシートに散らばった粃を集める者、まだ稲に残ってる粃を取る者、それらを運ぶ者、ふるいで藁を取り除く者、自然に皆の役割分担が確立され作業は順調に進み

ました。次に、ふるいで藁を取り除く作業をしたものを「唐箕」で選別しました。「唐箕」は安定した回転速度が重要です。子供たちは保全隊の方に幾度となく指導を受けながら、根気よくハンドルを回し続け全ての作業が終了しました。

今回、脱穀したのはもち米です。収穫祭では、餅が期待できそうです。

作業後の「こじはん」は、今回もコロナ渦で、残念ながら各自持ち帰りとなりましたが、朝から保全隊の奥さん方が準備してくれた、恒例のお赤飯のおにぎりとかくあんが振る舞われました。

現代では農家も高齢化・人手不足ということもあり、最新鋭の大型機械を使って稲刈りと脱穀を同時に行うのが主流となっている中、手作業で行う脱穀の体験は子供たちにとって大変貴重なものとなったことでしょう。水土里ネッ



ん～！稲になってきましたね！！



親子でふるい！楽しいな！

ト那須野ヶ原では、このような昔ながらの米作り体験を次世代の子供達へ伝える活動を、今後も支援していきたいと思います。

